

●●●2019年10月～12月期 栃木県中小企業景況調査(162回)●●●






【栃木県D I 指数天気図】 point!

























今期(県内全体)の業況

 **D I 値**
-25.2
※全国 -21.1

県内全体の業況は、前期比10.6ポイント悪化した。業種別にみると、全てにおいて悪化となり、製造業と小売業では前期比10ポイント近く、建設業においては24.3ポイントの大幅な悪化となった。来期は、全ての業種で改善し、特に小売業は大幅な改善が見込まれる。なお、全国の業況は前期比4.5ポイントの大幅な悪化となったが、今期は本県のD I 値がそれを下回ったことから、本県の厳しい業況が伺える。

～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
D I 値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業							
	D I 値	-14.7	-3.3	30.8	6.7	-6.7	-9.8
業況：今期は悪化、来期は小幅に改善の見込み (D I 値 前期比-9.9ポイント)							
建設業							
	D I 値	-19.5	5.0	60.0	-15.0	-15.0	-15.4
業況：今期は大幅に悪化、来期は小幅に改善の見込み (D I 値 前期比-24.3ポイント)							
小売業							
	D I 値	-33.5	-50.0	35.0	-35.0	-25.0	-20.1
業況：今期は悪化、来期は大幅に改善の見込み (D I 値 前期比-8.1ポイント)							
サービス業							
	D I 値	-26.8	-31.7	50.1	-28.3	-25.4	-19.8
業況：今期は小幅に悪化、来期は小幅に改善の見込み (D I 値 前期比-4.8ポイント)							

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

製造業

- 第1位： 需要の停滞 (25.0%)
- 第2位： 生産設備の不足・老朽化(11.8%)
- 第3位： 製品 (加工) 単価の低下・上昇難 (11.8%)

建設業

- 第1位： 従業員の確保難(38.7%)
- 第2位： 民間需要の停滞(16.1%)
- 第3位： 材料価格の上昇 (12.9%)

小売業

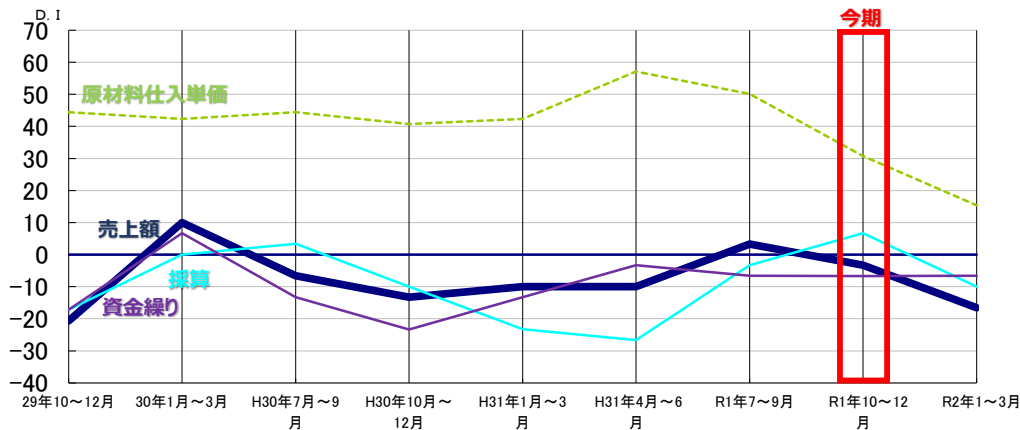
- 第1位： 需要の停滞 (22.2%)
- 第2位： 消費者ニーズの変化への対応(20.4%)
- 第3位： 大・中型店の進出による競争の激化 (16.7%)

サービス業

- 第1位： 利用者ニーズの変化への対応 (22.0%)
- 第2位： 需要の停滞 (18.7%)
- 第3位： 従業員の確保難(14.3%)

製造業

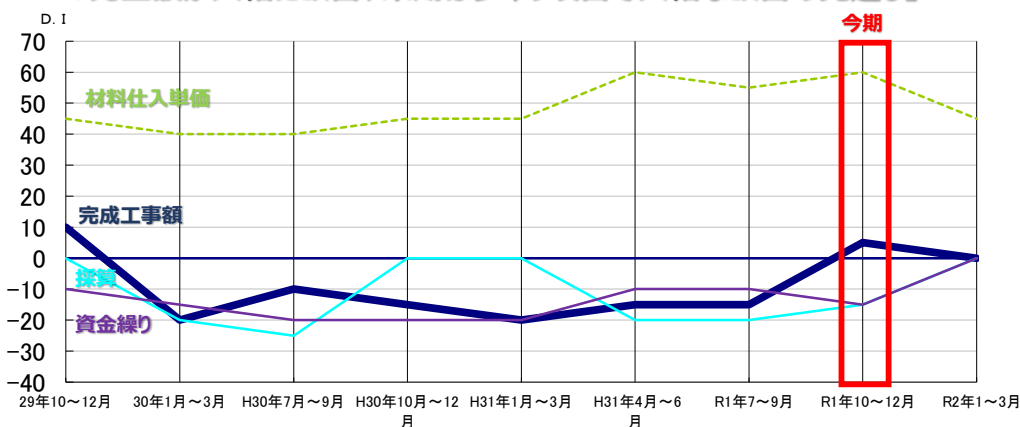
「原材料仕入単価、採算が大幅に改善、来期は採算、売上額が悪化の見込み」



「資金繰り」は、-0.1ポイント (-6.6→-6.7) と横這いとなり、「売上額」は6.6ポイント(3.3→-3.3)の悪化となったものの、「原材料仕入単価」は19.3ポイント (50.1→30.8)、「採算」は、10.0ポイント (-3.3→6.7)と、ともに大幅な改善となった。来期は、「資金繰り」は横這いが続き、「原材料仕入単価」が15.4ポイント (30.8→15.4) と今期に続いて大幅に改善するものの、「採算」は16.7ポイント、「売上額」は13.3ポイントと大幅に悪化する見込みである。

建設業

「売上額が大幅に改善、来期は多くの項目で大幅な改善の見通し」

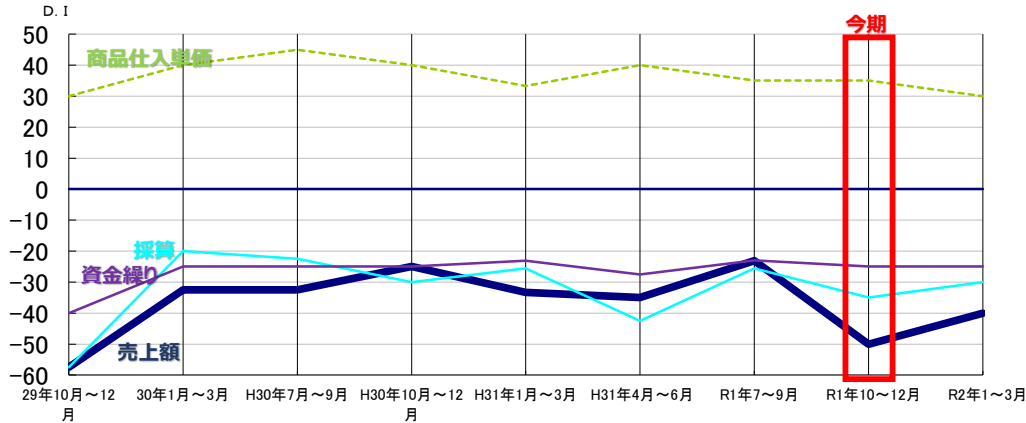


「資金繰り」(-10.0→-15.0)と「材料仕入単価」(55.0→60.0)が、ともに5.0ポイントの悪化となった一方で、「採算」(-20.0→-15.0)は5.0ポイントの改善、「売上額(完成工事額)」においては20.0ポイント (-15.0→5.0)の大幅な改善となった。

来期は、「売上額(完成工事額)」が5.0ポイントの小幅な悪化となるものの、その他の項目(「材料仕入単価」、「資金繰り」、「採算」)は15.0ポイントの大幅な改善となる見込みである。

小売業

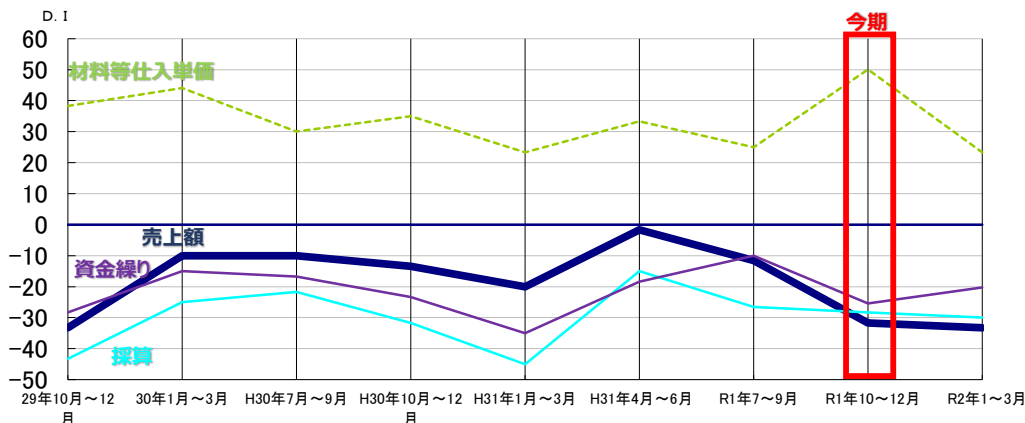
「売上額が大幅な悪化、来期は全体的に改善傾向」



「商品仕入単価」(35.0)は変動がなく、「資金繰り」は2.0ポイント(-23.0→-25.0)、「採算」は9.4ポイント(-25.6→-35.0)の悪化、「売上額」においては26.9ポイント(-23.1→-50.0)の大幅な悪化となった。来期は、「資金繰り」が横這いとなるものの、「商品仕入単価」(35.0→30.0)と「採算」(-35.0→-30.0)はともに5.0ポイントの改善、「売上額」は10.0ポイントの大幅な改善と、全体的に改善傾向となる。

サービス業

「全体的に大幅な悪化、来期は材料仕入単価が大幅な改善傾向」



「売上額」は20.1ポイント(-11.6→-31.7)、「材料等仕入単価」は25.1ポイント(25.0→50.1)、「資金繰り」は15.4ポイント(-10.0→-25.4)と大幅に悪化した。「採算」も、1.7ポイント(-26.6→-28.3)の小幅な悪化となり、全ての項目で悪化となった。

来期は、「売上額」と「採算」がほぼ横這いのなか、「資金繰り」は5.1ポイント(-25.4→-20.3)と小幅に改善し、「材料等仕入単価」においては26.8ポイント(50.1→23.3)と大幅に改善する見込みである。

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的実施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

にのみや・塩谷町・都賀町・間々田・那須町
佐野市あそ・石橋・大平町・高根沢町・那須烏山

○調査時点

2019年11月15日

○調査対象期間

2019年10月～12月期の実績及び、2020年1月～3月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業 種	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	30	20.0%
建 設 業	20	13.3%
小 売 業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合 計	150	100.0%

※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。